

JR 連合への総結集を果たし、 明るい未来を 私たちの手で実現しよう。

JR 連合 会長
荻山 市朗



JR がスタートして間もなく33年が経過する。JR 各社は鉄道の再生に向けて労使をあげて取り組み、わが国の社会を支える基幹産業として役割を果たしてきた。今後を展望すると、人口減少、労働力不足、技術革新、社会の多様化など、これまで以上に急速な環境の変化が大きな影響を及ぼすことは必然である。こうした中で、JR 産業が将来にわたり発展し続けていくためには、従来の延長線上ではない変革が求められる。

そのために誰が役割を果たすべきか。私たちはJR 産業の健全な発展を求めるベクトルを労使で同じくし、経営の最大の基盤である人材、働く者をまとめ、意欲や能力を高めるとともに、職場の視点から会社を的確にチェック、提言し、さらに社会とのネットワークを支える役割も果たすことができる労働組合の役割がきわめて重要であると確信する。既得権益を守るような後ろ向きの意識からではなく、環境変化に対応した職場や働き方の変革を進めるためには、健全な労働組合の役割の発揮が不可欠であるからこそ、私たちの想いを提起したい。

安全を基礎に持続的に社会的役割を果たすべきJR 産業には、安心して意欲を持って働き続ける長期雇用を通じ、経験、知識、技術、技能を高めて人材を育成する環境が求められる。これは労使の一致した見解である。そして働く者にとっては、仕事が充実せずして人生が豊かになるはずがない。きわめて重要な位置を占める仕事に受動的に臨むのか、能動的に臨むのかで人生は大きく変わる。また、JR 産業は多くの職種やグループ会社、協力会社など様々な働く者の協力で成り立っているが、日々の仕事では得られない多様な仲間とのつながりや相互理解の重要性もますます高まっている。

こうした安心や意欲を高めて職業人生を充実させる機能は、とりわけJR 産業においては健全な労働組合こそ役割を果たし得ると確信する。会社側にとっても、信頼できるパートナーの存在はきわめて有益であるはずである。

そして、JR 連合がその役割を十分に果たすためには、さらに運動を磨き高めなければならないと決意する。また、JR 連合に加わっていないJR 産業に働く仲間、その経営側に対しては、健全な労働組合の役割や私たちが追求する方向についての理解を広げていかなければならない。

このような問題意識に基づき、JR 産業の持続的発展のために、私たちが追求する理念や行動指針、固い決意を「JR 連合ビジョン」として提起する。未来志向の理念の下、20万人を超えるJR 産業に集う仲間のJR 連合への総結集を果たし、明るい未来を私たちの手で実現しよう。